

## ～実際に働いて感じたこと 先輩職員の声～



総務部 システム部門

【平成29年度採用】

常に高い目的意識で  
「税関ファミリー」の一員に

### 社会に広く貢献

税関に入関する前は、約10年間システム開発会社において情報通信システムの開発や金融機関システムの開発に従事していました。そのような折に税関の選考採用試験があることを知り、対価を超え今まで以上に広く社会に貢献できるのではないかと考え選考採用試験に応募しました。また、同僚が税関手続きのNACCSシステム開発に携わっていたこともあり税関業務そのものに強く関心を持っていたことが大きな動機の一つです。

### 「税関ファミリー」としての「絆」

税関で実際に働き始め、職員同士の信頼関係「絆」がとても強いことを日々感じています。業務中一人では解決困難な場面に度々遭遇しますが、「税関ファミリー」という言葉があり皆で協力し知恵を出し合って対応にあたります。また、その場で分からないことがあっても、丁寧に教えて貰えます。そういった文化が醸成されていることもあり、選考採用枠で採用された私でも分け隔てなく温かく迎え入れて貰えました。また、ワークライフバランスに係る制度が推進されており、私も昨年約2か月の育児休業を取得しました。生活面においても充実させることができ、更に高い目的意識を持って業務にあたることができています。

### 自身の知識・経験を積極的に活かして

税関には豊富な研修制度があるので、今後は、各種研修を通じ輸出入通関全般に係る知識を広く深く習得していきたいと考えています。また、これまでの知識や経験を積極的に活用し税関の使命遂行に一層貢献できるよう努めていきたいと考えています。



羽田税関支署 旅具通関部門

【平成30年度採用】

不正薬物等の  
阻止を担うフロとして

### 税関の使命に深く共感

私の前職は警察官でした。約12年間様々な部署で勤務し、たくさんの犯罪を見てきました。

税関に入関する前は、犯罪被害防止の対策を担当する部署におり、どうすれば被害の発生を未然に防ぐことができるかを常に考えていました。数多くの被害者と接して思うことは、たとえ事件が解決したとしても、被害者の生活が元に戻ることはないということです。被害に苦しむ人を一人でも多く減らすためには、犯罪そのものの発生を未然に防止することが重要であり、その点において私は、不正薬物等の国内流入を未然に防止するという税関の使命に深く共感し、選考採用試験に応募しました。

### 自己研鑽を重ねられる職場

現在は羽田空港において旅具通関の業務に従事していますが、まさに不正薬物等流入の最後の砦として「安全・安心な社会の実現」に貢献できていることに喜びを感じています。

また、税関の業務は非常に幅広く、職員個々に様々な可能性を持てる職場だと感じます。研修制度も充実しており、学ぶ意欲のある職員には新しいことに挑戦するチャンスがいくらかでも用意されている恵まれた環境です。

日々の業務を通じて知識や経験を積み、今後はそれを活かしながら、より一層社会に貢献できる人間になりたいと思っています。



関税中央分析所（東京税関採用）

【平成30年度採用】

専門分野で  
更なる飛躍を

### 無限大の可能性

私は大学卒業後、警察官として交番や機動隊で数年勤務したのち、博士号を取得して国立研究開発法人の研究者として約10年基礎研究に従事していました。税関を知るきっかけは偶然見つけた募集案内でしたが、業務内容について調べていくうちに、旅具通関部門などでの水際取締りや分析部門での不正薬物分析など、警察及び研究業務の両方を税関で活かせるのではと、強い魅力を感じました。新しいことに挑戦しつつ自分のこれまでの知識や経験を活かして、税関業務に貢献したいと思い志望しました。

### 税関の職域の広さに驚き

入関後、本関特別通関部門、羽田旅具通関部門を経て、現在、関税中央分析所第三分析室で勤務しています。主に有機化学薬品等の分類決定や不正薬物の分析などを行っていますが、我々の出した分析結果によっては関税額の変更や密輸事案の摘発につながるため、責務の重大さを痛感していますが、そのぶん大変やりがいを感じています。

実際に業務を行って感じたことは、税関は想像していた以上に多種多様な業務があり職域の広さに驚きました。また選考採用でも様々なバックグラウンドを持った職員が採用されており、税関組織の柔軟さを感じました。入関当初は覚える仕事量の多さに戸惑いと不安を感じましたが、どの職場でも不安なことやわからないことは上司や先輩、同僚が親身になって教えてくれ、中途採用者を優しく受け入れてくれるアットホームな雰囲気があり、大変心強く感じています。

### 「安全・安心な社会の実現」のために邁進

今は目の前の業務をこなすことで精一杯ですが、税関業務や分析手法などの深い理解と知識・技術の習得に励み、早く一人前の税関職員となるよう日々努力していきたいと思っています。関税中央分析所報の執筆や学会発表、海外の税関分析官への技術指導なども積極的に行っていきたいです。税関の水際の最前線での取締りや分析技術の向上などを通して税関業務に貢献することで、安全・安心な社会の実現のために邁進していく覚悟です。